

たけたの食べ方_エコファーム21様

■タイトル

最新のトマト栽培で地域を変えるイノベーター

エコファーム21 太田 修道



標高500mの高原地帯である竹田市荻町は、西日本有数の夏秋トマトの産地です。ここで最新の設備を導入しながら年間約600トンものトマトを生産しているのが「エコファーム21」の太田修道さんです。

太田さんは荻町で米農家を営む両親のもとに生まれ、子どもの頃から「将来は農業をしたい」という夢を持っていました。隣町の農業高校に進学し、卒業後はすぐに就農。両親と共に野菜やお米づくりをしていた太田さんでしたが、20年ほど経ったある時、家族だけで農業を続けていくことの限界と、天候に左右される農業形態や生産者の高齢化が進む現状への危機感を感じたそうです。



「農業協同組合の理事を務めていた時に、様々な自然災害にも打ち勝つ農業形態を作り、人を雇用していかないと、地域がどんどん衰退していくと思ったんです」

“地域のためにトマト作りのイノベーションを起こす”と決めた太田さんは、平成11年に「エコファーム21」を立ち上げ、ハウスで最初のイノベーションを起こしました。

「ハウス栽培の先進国として知られるオランダに研修で行った時に、最先端のシステムや設備が整えられたガラス張りのハウスを見たんです。風速55mまで耐えることができたり、一般的なビニールハウスの約3倍の高さがあることで熱気がこもらず働きやすかったり、自然災害への対応がしっかりできていることと、また働き方が改善されることに魅力を感じ導入することを決めました」

九州でも珍しいというオランダ式のハウスの中は、温湿度の管理や水やりなどがオートメーション化され、水分や肥料の過不足も数値化。昨今話題のスマート農業を地域内でいち早く取り入れたことにより、安定して美味しいトマトを生産できるようになったそうです。



初期費用は数億円、ランニングコストもかなり掛かっているそうですが、スマートフォンで簡単に状況のチェックもできるようになったことで、完全週休2日制、17時半退社という働き方が実現し、作業効率もアップ。これにより生産性が高まり、売り上げも右肩上がりになっているといいます。

売り上げが好調な中、2021年、太田さんは「もっと特色のあるトマトを」と、新しい挑戦を始めました。それが新農法の採用です。

「良いものを作ったから高く売れるような気がするけど、でもそうじゃない。消費者の方にいかに愛される野菜を作るかが重要なんですよね。ニーズを把握した上で、それに見合う商品を作らなければならない。だから新農法を採用しました」

精密な土壌分析を行い、診断結果によって窒素やリン、カルシウムなど作物に必要な養分の過不足を把握し、肥料を与えるという新農法。これによって、太田さんは栄養価の高いトマトを作ることができるようになりました。



「体が欲しがっている栄養素をトマトを食べることで補えたら理想だと考えました。トマト本来の味はしっかりと守りつつ、栄養価が高いトマトを作ることで、また食べたいというリピーターが増えてくれると思っています」

肉質がしっかりとっていて、旨味と栄養価がぎゅっと濃縮された「エコファーム21」のトマト。現在は選果場も完備した3.4haの農場で年間約600トンを出荷しており、収穫されたトマトは竹田市内のスーパーマーケットに加え、福岡、京都、名古屋、東京へも出荷。大手の量販店で購入することができます。

そんな大規模農場を支えているのは、20代、30代の若手社員のほか海外の実習生や、収穫のお手伝いに来てくれる福祉施設の方。毎日40名近いスタッフがトマト作りに精を出しています。しかし、太田さんが目指すのは“地域を動かす”企業体づくりです。より多くの人を雇用し、さらには新しい事業へも挑戦することで、地域の未来を守りたいと意気込みます。

「10年先、20年先の地域経済を守る環境を整えたいんです。そのために若い人たちを100人雇用できるような企業体を作ることを当面の目標としています。また地域を潤すためには、外から人を呼び込んで、そこで滞在してお金を落とす仕組み作りが必要です。将来は地域の特産品が味わえるレストランや、特産品を使ったお土産物の製造、農業の研修にも使える宿泊施設などを作り、地域経済を回す環境を作りたいと思っています」

家族経営の農家から始まり、地域の未来を次世代へと繋ぐ農家へ。
時代にあった技術革新をしながら、大きな夢に向かって着実に歩み始めています。



プロフィール

エコファーム21 代表 太田修道

竹田市荻町出身。農家に生まれた影響で、幼い頃から農業への関心を持ち、将来は農業を営みたいと、農業高校に進学。卒業後はすぐに就農。学校で学んだ知識を活かし、トマト栽培を始める。平成11年に「エコファーム21」を起業。会社ではトマトだけを生産しているが、自宅では両親と奥さんがミニトマトや野菜などを生産している。3人の娘を持つ父。

たけたの食べ方マイスターとしての活動:

- ・トマト作りについての講演
- ・農家の仕事についての講演

【エコファーム21】

住所:大分県竹田市荻町恵良原2108番地1

電話:0974-68-3156